

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: osk\_CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP寝屋川プロジェクト	階数	地上4F
建設地	大阪府寝屋川市小路南町 東部大	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年4月 予定	評価の実施日	2017年4月27日
敷地面積	13,328 m <sup>2</sup>	作成者	竹中工務店
建築面積	7,100 m <sup>2</sup>	確認日	2017年4月27日
延床面積	27,233 m <sup>2</sup>	確認者	竹中工務店



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
3PLのための次世代省エネボックス施設の構築		埋蔵文化財に配慮した、GL・1FLの設定・設備配管ルート、ビットの配置。
3PL(サード・パーティ・ロジティクス): 保管や配送、荷役、輸出入、物流コンサルといった個別の物流サービスだけでなく、物流全体を一括して請け負うことで、調達から生産、販売といった物流全体の最適化・効率化を実現するサービス		アルミシステム枠転用SRC柱施工による3R(リサイクル、リユース、リデュース)の実施
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
外壁高断熱パネル、高反射色屋根・ダブル折板断熱屋根の組合せ。 ハイサイドライト設置による昼光利用。 エントランス、事務室の南北に開口部を設け、高い天井	ハイサイドライト設置によるオペレーションに必要な照度の確保。	緑化面積: 地区計画により、敷地面積×20%以上の確保。 道路境界線沿い3mの範囲に3m以上の高木の配置、かつフェンス高さを1200mm以下とすることによる緑化面積の1.5倍算定。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
ハイサイドライトの設置による停電時の必要な照度の確保。 BCPとして、非常用発電機を設置。	鉄骨造+耐震ブレース+外壁両面金属板張り断熱パネル、屋根ダブル折板断熱工法の合理的な組合せの追及による省資源の実現。 南北の卓越風に配慮した給排気口の適正な配置による省エネルギーの実現。	隣接河川(讃良川)沿いの遊歩道に配慮した緑化フェンスH=1800mmの設置。 南北の卓越風に配慮した開口部の配置。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム 2017年版

## 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H29-0053

Osakafu-新築・既存 2017V1.0

<b>【建物概要】</b>		建物名称	GLP寝屋川プロジェクト					
		建設地	大阪府寝屋川市小路南町 東都大阪都市計画事業小路土地区画整理事業地内8街区1,2画地					
		用途/区分	工場					
<b>【評価結果】</b>	CASBEE 総合評価					B+		
	CO2削減					4		
	省エネ対策					4		
	みどり・ヒート アイランド対策					2		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
エネルギー消費量の報告							報告しない	
<b>【評価項目】</b>								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価			建物全体		4	
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価						
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0		
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0		
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				3.4		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								